

接続副詞 *though* の用法

松尾文子

1. はじめに

though は接続副詞として用いられることがある。接続副詞は話し手が二つの言語単位の関係 (connection) をどのように見ているかを示す語である (Quirk *et al.* 1985:632)。言語単位としては単語から文、パラグラフ、それより範囲の広いテキストまで考えられ、その規模はさまざまである。

副詞 *though* は一般に *even so*, *in spite of this* などとパラフレイズされる。so や *this* はふつう直前の情報を指す。では、次例はどのように考えられるのであろうか。

(1) BOURDEAU: Twist, you know this guy?

TWIST: No, I never saw him before. He's a dick, *though*. – *The Sting* [映画台本]

この場合 so, あるいは *this* に相当するのは 'I never saw him before.' なのだろうか。'He's a dick in spite of the fact that I never saw him before.' では意味を成さないのではないか。*though* によってどの言語単位が関連づけられているのであろうか。

本稿ではこのような例を含めて、接続副詞 *though* の機能と用法を談話の流れ・枠組みの中で考察する。

2. 副詞 *though* と接続詞 *though*

副詞 *though* はしばしば接続詞 *though* と関連づけて考えられる。論理的には次の三文は等しいとされる。

- (2) a. He is poor. He is happy, *though*. (副詞)
 b. *Though* he is poor he is happy. (接続詞)
 c. He is happy *though* he is poor. (接続詞) – Greenbaum 1969: 67

though によって二つの情報が結びつけられているが、それぞれの情報を [X], [Y] とすると、[X] [Y] *though* (副詞) = *Though* [X] [Y] (接続詞) の関係が成り立つ。ただし、接続詞の場合は (1c) のように主節と従属節の位置が入れ替わってもよい。*though* は副詞の場合には [Y] に、接続詞の場合には [X] に付加される。

副詞 *though* の文中での位置は文頭、文中、文尾いずれでも可能である。*though* が文頭で用いられる場合、書き言葉では次例のように句読記号で区切られ、話し言葉では音調によって接続詞と区別される。¹⁾

- (3) He is poor – *though* he is happy. – *ibid.*

この *though* は Greenbaum (1969:68) によると位置可動 (mobile) な副詞で、他の位置に移動させても文の意味は変わらない。²⁾ また、*though* は文尾で用いる方がくだけた言い方になる (Quirk *et al.* 1985:642)。

副詞 *though* は “add a fact or opinion which makes what you have just said seem less important” (LDOCE³) とあるように、情報の重要性は [X] より [Y] の方が高い。接続詞の場合でも [Y] の方が重要性が高いが、*though* は副詞ならば重要性の高い [Y] に、接続詞ならば重要性の低い [X] に付加される。以下、*though* によって関連づけられる二つの情報を X, Y と記す。

3. 逆接

英英辞典などでよく目にする用法は逆接を表すものである。YはXの内容から考えると、ふつうはそうはならないであろう事柄である。

- (4) He tried to speak: his mouth opened and closed. There was no sound, *though*, simply the gurgling in his chest. —S. Smith, *A Simple Plan*

Xは「口を開閉した」、Yは「声は出なかった」である。しゃべろうとして口を開閉すれば声が出るはずなのに実際は出なかった。

(4)ではX、Yともに文脈で明示されているが、必ずしもそうであるとは限らない。次例は妊娠中のエツコを気づかった知人が彼女にかけた言葉である。

- (5) “I lead a very easy life.”
“That’s good. I remember my first time, there was an earthquake, quite a large one. I was carrying Kazuo then. He came perfectly healthy *though*. Try not to worry too much, Etsuko.” —K. Ishiguro, *A Pale View of Hills*

この例ではXは明示されていない。妊娠中に大地震があったという先行文脈から、Xとして「そんな状況では健康な赤ん坊は生まれまいだろう」を推論しなければならない。そうすればXと逆接の関係にあるY「健康な赤ん坊が生まれた」とを *though* によって結びつけることができる。

(5)の場合Xを推論することは容易であるが、次例ではどうであろうか。
(6)の彼女は beauty contest 出場を目指している。

- (6) The day some months later when he commented on her vanishing waist, she’d said, “The better to match your hairline, ducks.”

He hadn't minded, *though*. – M. Clark, *Beauty Contest at Buckingham Palace*

消えてなくなりそうなほど (*vanishing*) 細くなったウエストのことで彼がコメントした時に、彼女が彼に対して「あなたの額のはえ際に合わせてなくたった (*vanishing*) 方がいいからね」と言った。Xを推論させる文脈はなく、ふつう男性は髪が薄くなることを気にするものだという想定をXとして読み手が補わなければならない。

*though*があることによって、XとYとは逆接的な関係にある内容であることが示される。したがってXが明示されていない場合には、*though*はYとは逆接的な関係にある文脈Xを補えという合図になる。

4. 話し手の意見・評価

Xを認めた上でXの内容からすると意外な話し手の意見や評価がYで示されることがある。逆接の用法と異なるのは逆接ではYで事実や事態が述べられるのに対し、この用法では話し手の意見や評価が述べられるという点である。

次例は株のブローカーと投資家の会話である。投資家は Ajax 社の株を数千株注文するつもりであった。

(7) “... Are you still interested (in an investment)?”

“I'm not in any hurry to invest. I guess I should make up my mind about Ajax in the next day or so, *though*. ...” – S. Paretsky, *Killing Orders*

X「投資を焦っていない」であるなら Ajax 社株に関してもすぐに決めないというのが順当であるが、実際はY「一兩日中に決断しなくてはならない」と反対の意見を述べている。

同様の例を見る。Susanは話し手の恋人で、彼は彼女との結婚を望んで

いるが、彼女は今すぐには思っていない。

(8) “People shouldn’t get married unless they are both sure they want to,” I said.

“Of course not,” Susan said.

“Would have been fun, *though*,” I said.

“Yes.” —R.Parker, *Paper Doll*

話し手はX「双方が望まなければ結婚すべきでない」を一応認めた上で、それとは反対のY「結婚してみればおもしろいかもしれない」という意見をさらに続けている。

上の二例ではXとYの関係が明瞭であるが、次例ではどうであろうか。

(9) On the big screen television, *Jeopardy* had ended and the local news was on. It looked and sounded exactly like local news everywhere: a serious-looking anchor; an attractive, *though* not frivolous, anchoress; at twilight to do the weather; ... —*ibid.*

Xは‘attractive’, Yは‘not frivolous’であると一応示されてはいる。しかしこの二つを *though* でつなげるには、真偽のほどはともかく、容姿が魅力的な女性は頭は空っぽで軽薄であるという書き手の、あるいは一般的に抱かれている想定を補わなければならない。逆に言うと、*though* があることによってこの想定が導き出せる。この例では(7)(8)ほどXとYの関係は明瞭かつ直接的ではない。

さらに例をあげる。Jakeは刑事でTCは彼の友人である。ある夫婦がアンフェタミンを注射されたガラガラヘビに殺された事件のことを話している。ヘビは車で殺人現場まで運ばれた。

(10) TC: Incidentally, why were the snakes injected with am-

phetamine?

JAKE: Why do you think? To stimulate them. Increase their ferocity. It was like throwing a lighted match into a gasoline tank.

TC: I wonder, *though*. I wonder how he managed to inject the snakes, and install them in that car, all without getting bitten himself. — T. Capote, *A Nonfictional Account of an American Crime*

アンフェタミンを射つとヘビの獯猛さが増し、ガソリントankに火のついたマッチを投げ入れるようなものだという先行文脈からX「噛まれる危険性が大きい」を導き出せば、thoughで関連づけられたY「よく噛まれずに注射して車に放り込めたものだね」とのつながりがうまくいく。Xの内容からすると意外なことが起こったと考えている話し手の意見がYで述べられている。

同様の例をあげる。詐欺師仲間が集まってバーの奥で numbers game をしている。バーにやって来た刑事を覗き窓から見て Bourdeau が Twist に尋ねる。

(11) BOURDEAU: Twist, you know this guy?

TWIST: No, I never saw him before. He's a dick, *though*. — *The Sting* [映画台本] (= 2)

「彼に会ったことがない」と「彼は刑事だ」は直接的にはつながらない。「会ったことがない」という情報から「誰なのかわからない」を導き出し、さらにそれから「誰なのか確信がない」というXが推論できる。Xを「確信がない」であるとすると、当該の文は 'He's a dick, *though* I'm not sure of it.' と似た意味になる。この though 節は、述べていることに対する話し手の態度や評価、あるいはそれについての確信や疑いといった真偽判断を述

べる content disjunct³⁾として機能している。このように考えると、X ‘I’m not sure of it’ は ‘He’s a dick’ ではなく、表層には現れていない遂行節を含んだ Y ‘I say (that) he’s a dick’ と関連づけられる。言葉のやりとりの上での効果として、この例や(8)は though を付加することによって最終判断は相手に委ねるといったニュアンスが感じられる。

次は Y が明示されていない例である。

(12) “Would you care for a drink?”

“Pepsi is fine.”

My answer pleased him. He was a Moslem and drinking no alcohol. *Though* in private, who knew? –J.Engelhard, *Indecent Proposal*

X は「彼はイスラム教徒で酒は飲まない」である。Y は何であろうか。修辭疑問文「プライベートではどうか誰が知るもんか」は、「誰も知らない」を含意するが、これは皮肉で話し手は知っている。何を知っているかという、X とは反対の「酒を飲む」ということであり、これが Y になる。though を用いることによって Y は X とは反対の内容であることが示されるからである。話し手の意見や評価が述べられる場合、このように Y で疑問文が用いられることがある。

疑問文の後に though が付加されることがあるが、この場合強調の意味 (indeed, truly) を表す。例を見よう。足首に絡まっていたロープをほどいて手に持っている私に Mariko がそれは何かと問う場面である。月夜のことである。

(13) “What’s that?” she asked.

“Nothing. It just tangled on to my foot when I was walking.”

“What is it *though*?”

“Nothing, just a piece of rope. ...” –K.Ishiguro, *A Pale View of*

Hills

though を含む文は「本当に（一体）何なのよ」という意味である。それは何かという問に対する X 「何でもない」の答えに Mariko は X の内容とは反対の「何でもないはずはない」という意見を持ち、例のように聞き返す。話し手 Mariko の X に対する意外な気持ちによって強調の意味が出て来る。この例では同じ質問を繰り返すことによっても強調、および苛立ちのニュアンスが感じられる。

次も同様の例である。

- (14) Yeah, a Rolex for £150 is a great bargain. Is it real *though*? –
LDOCE³

話し手は X 「150ポンドの Rolex は掘り出し物だ」を認めた上で、「本物の Rolex がそんなに安く手に入るはずがない」という X とは相反する考えを抱き、このように尋ねている。

Y が X の内容と反対のことを表すのではなく、一部を訂正する場合がある。

- (15) “... Murder is usually depressingly simple.”

“Not always, *though*.” –P.Cornwell, *Body of Evidence*

X 「殺人はたいてい単純だ」に対し Y 「いつもそうとは限らない」で ‘usually’ という単語の訂正をし、正確に言い直している。

いずれの例でも、この用法では X からすると反対で意外な、あるいは一部異なる話し手の意見が Y で述べられている。

5. 対比

対照的な二つの事柄 X, Y を結ぶ用法がある。

-
- (16) I never get lost driving in Chicago. If I can't find the lake or the Sears Tower, the L tracks orient me, and if all else fails, the x-y street coordinates keep me on target. Out here, *though*, there were no landmarks. —S.Paretsky, *Bitter Medicine*

‘x-y street’はグラフのx y座標のように走っている道路のことである。車を運転するときのことを述べているが、Xは「シカゴ市内には道に迷わないように目印がある」で、Yは「この郊外では目印がない」である。シカゴ市内の状況と郊外の状況を対比させており、‘in Chicago’と‘out here’によって対比させる対象を明示している。

さらに同様の例をあげる。

- (17) The collie barked, once. ... The collie barked at us again. ... The collie was sitting on the porch. It didn't bark this time *though*; it simply stared at my station wagon, its ears erect, ... —S.Smith, *A Simple Plan*

thoughを含む文の少し前の二箇所の文脈から、Xは「コリーは私達を見るといつも吠えた」であることがわかる。今回もまた吠えられると予想していたが、実際はそうではなかった。Yは「今回は吠えなかった」で、以前のコリーの様子と今回の様子とが対比されており、‘this time’によって対比を表すことがいっそう明確になる。このように対比を表す用法では、対比させる対象を明示する語句が用いられることが多い。

逆接を表す用法では、Xから考えるとふつうはそうはならない事柄がYで述べられる。thoughによって相反する(訂正を表す場合は一部異なる)二つの事柄を関連づけることになり、この点では対比を表す用法と同じである。しかし、対比を表す用法では二つの事柄を並べ、比べていることがよりはっきりしている。

6. 話題提示

though が談話を構成するレベルで作用する場合がある。話題を提示する用法で、談話進行・組織化の機能を果たす。

例を見よう。ドイツの石鹸会社のアメリカ支社はこのところ業績不振である。そこで大規模な宣伝活動などのために社長が来ることになった。それに備えた会議での言葉である。

- (18) "... This will be a total campaign – PR, publicity, collateral and all the rest. You know what I mean? First, *though*, we'll be writing his speeches so that he can pep up his key executives here. ...” – J.Engelhard, *Indecent Proposal*

we は企業の宣伝活動などを請け負う会社で、スタッフには speechwriter もいる。PR を含めて総合的なキャンペーンを展開するが、その前にまずアメリカ支社の重役たちの士気を高めるような演説を社長のために作成しなければならない。談話の流れからすると PR 活動の具体的な内容を討議することが予想されるが、その流れから逸れて社長の演説原稿の作成に話題が移る。

同様の例をあげる。Kerry は検察官で、事件を追っている最中に娘の Robin に危害が加えられたが、大事には至らずに済んだ。事件から手を引けという犯人からの警告であろう。先輩でもある友人が彼女の仕事を評価しながらも、彼女と娘の身を案じて忠告する場面である。

- (19) “You’re very persuasive, Kerry, and I admire you even while I worry about what this may cost you. First and foremost, *though*, is Robin. The threat may be just that, a threat, but you must take it seriously.” – M.Clark, *Let Me Call You Sweetheart*

娘に危害が加えられても裁判の準備をし、真相を突き止めようとする彼女

の姿勢を友人は賞賛している。しかしそれまでの褒め言葉から一転して、話し手は娘の Robin のことをまず考えなさいと話題を移す。この用法では (18)(19) のように first, first and foremost (いの一に) のような列挙や話題の展開を示す語句が共に用いられることがある。そしてこれらの語句の後には具体的な例を並べたり、流れに沿って展開した情報が提示されるのではなく、それまでの流れとは異なる話題が持ち出される。

この用法では談話の流れからすると予想外の話題を提示するので、though は話題の転換を合図する談話進行・組織上の機能を果たすことになる。

7. 副詞 though と「でも、だけど」

副詞 though の語義として辞書では「でも、だけど、しかし」などが与えられる。逆接を表す用法、話し手の意見・評価を表す用法、対比を表す用法でこれらの日本語が用いられることは容易に想像できる。先にあげた例における though を含む文を考えてみる。

逆接を表す(4)では「しかし声は出ず、胸がゴボゴボ鳴る音がしただけだった」、話し手の意見・評価を表す(8)では「でも (結婚) してみればおもしろいかもしれないよ」、対比を表す(16)では「しかしここ (シカゴ郊外) には目印になるものがなかった」と訳すことができる。

英語と同様にこれらの日本語は話題提示のためにも用いられる。

(20) 「... アメリカに住んでいた時、やっぱり音楽家志望の女の子と仲よくなったんだ。あっちは同棲していると夫婦と認められるから、よく二人で一緒にパーティにも行ったよ。僕ひとりで行くと、今日は彼女はどうしたんだって、皆に聞かれるんだ」

「ふーん」...

「でもね、さっきの映画、わりとよかったね」

それが癖で、通彦はのんびりと話題を変えてくる。一林真理子『不機嫌な果实』

次例はピアノコンサートの休憩時間の会話である。

(21) 「ちょっと待っていて下さい」

工藤はしばらくしてから、ワインのグラスを二つ運んで来た。...「どうもありがとうございます」

麻也子は神妙に挨拶してグラスを受け取った。

「だけどやっぱりよかったですねえ ...」— *ibid.*

工藤はピアノの演奏に対する感想を述べている。この例ではワインを持って来てくれたことに対するお礼の言葉から一転してコンサートのことに話題が移されるが、同時に「だけど」は本筋の話題に入る場面作りの機能をも有する。

これらの語のほかに、あらたまった場面や男言葉として「しかし」も用いられる。英語の場合と同様に、談話の流れからすると意外な話題を提示するので話題を転換する機能を果たすことになる。

8. おわりに

副詞 though によって関連づけられる二つの情報を X, Y とすると, though は基本的には「Y で述べられていることがそれまでに述べられた X と対照を成している」ことを表す。このコアになる意味からいくつかの用法が派生する。

- a. 逆接: Y は X の内容から考えるとふつうはそうはならないであろう事柄。
- b. 話し手の意見・評価: Y は X を認めた上で X の内容からすると意外な話し手の意見・評価。Y で X の内容と一部が異なる意見が述べられる場合は訂正・言いなおし。
- c. 対比: Y は X とは正反対の事柄。逆接の用法の場合より二つの対照的な事柄を並べ、比べていることが明瞭である。

though が談話構成, すなわち談話をどのように進行させるかというレベルで機能すると, 次の用法が考えられる。

- d. 話題提示: 談話構成上の機能。Yはそれまでの談話の流れ X からすると流れに沿わない予想外の話題。したがって話題の転換が行われることになる。

though によって関連づけられる二つの情報 X, Y が文脈で明示されることもあるが, 必ずしもそうであるとは限らない。明示の度合いにも段階があり, 明確に示されている場合, 読み手 (聞き手) が少し推理力を働かせれば X, Y の内容を決定できる場合, かなりの推論段階を経なければ X, Y の内容を決定できない場合がある。明示されていない場合には二つの情報を関連づける副詞 though があることを手がかりに, それらを推論しなければならない。接続副詞 though の存在によって明確に言語化されていない文脈を規定することができるのである。

註

- 1) 話し言葉での音調は次の通りである。
 - (i) He is p00R | - *though* he is sXrisified with his condition | - Quirk *et al.* 1985: 642
 - (i) の | は音調単位 (tone unit) の終わり, 小型の大文字は音調単位の核 (nucleus), は、単純下降音調 (simple fall), ~ は 1 音節における下降・上昇音調 (fall-rise) を表す。
- 2) 位置可動な副詞に対して, 位置固定 (immobile) の副詞もある (Greenbaum 1969:25)。yet, so, besides, hence など, これらは文頭でしか用いられない。
- 3) content disjunct は Greenbaum や Quirk *et al.* (1972) では attitudinal

disjunct と呼ばれている。真偽判断を表すものには clearly, probably, certainly, surely などが、価値判断を表すものには wisely, sadly, happily, rightly, wrongly などがある。また副詞以外にも、副詞句、副詞節もある。次のイタリック部もそうである。

(ii) She enjoys driving, *though she doesn't like to drive in heavy traffic.* — Quirk *et al.* 1985: 1072

(iii) *To be sure*, we have heard many such promises before. — Quirk *et al.* 1985: 622

参考文献

Ball, W.J. 1986. *Dictionary of Link Words in English Discourse.* Macmillan.

Greenbaum, S. 1969. *Studies in English Adverbial Usage.* Longman.

Longman Dictionary of Contemporary English. (Third edition). 1995.

[LDOCE³]

Quirk, R., S.Greenbaum, G.Leech and J.Svartvik. 1972. *A Grammar of Contemporary English.* Longman.

Quirk, R., S.Greenbaum, G.Leech and J.Svartvik. 1985. *A Comprehensive Grammar of the English Language.* Longman.